

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

特発性正常圧水頭症の DaTScan でわかること

脳機能画像診断開発部 病態画像研究室

文堂 昌彦 室長

2019年10月10日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

特発性正常圧水頭症 (idiopathic normal pressure hydrocephalus、iNPH) は、明らかな先行疾患なく、脳脊髄液の貯留を伴い歩行障害、認知障害、排尿障害を来す高齢者に特有の疾患である。これらの症候は、脳脊髄液シャント手術によって改善が期待できるが、多くの場合は症状緩解に至らない。これは脳脊髄液の排除だけでは解決できない脳実質障害が存在していることを意味している。診療ガイドラインで possible iNPH と定義される症例群には、Parkinson's disease (PD)、progressive supranuclear palsy (PSP)、あるいは dementia with Lewy bodies (DLB) などといった神経変性疾患が含まれている可能性がある。そして、最近ではシャント手術効果が限定的である原因として、iNPH とこのような神経変性疾患の合併が議論されている。

近年では 123I-FP-CIT SPECT (DaTScan) の臨床応用によって、これらパーキンソン病類縁疾患の診断能力が向上した。そして iNPH 疑い症例に対して DaTScan を実施したところ、特徴的な DESH (Disproportionately Enlarged Subarachnoid Space Hydrocephalus) 所見を呈しながら、同時に DaTScan の集積低下が認められる症例がしばしば経験された。これまで iNPH はドパミン神経節後線維が障害される疾患であり、節前神経は障害されないという定説があった。しかし、DaTScan における集積低下はドパミン神経節前線維障害を意味しており、これまでの定説には合致しない。それでは iNPH ではドパミン神経節前線維の障害はあるのだろうか。それは iNPH のどれぐらいの割合で存在するのか。また、それは神経変性疾患の合併を意味するのか、そして、果たして iNPH の病像やシャント効果にどのような影響を及ぼすのだろうか。

われわれはこれまでに iNPH を疑われる 170 症例に対して DaTScan を実施してきた。今回は、これまでの診療経験に基づき、iNPH におけるドパミン神経節前線維障害の実態について検討した結果を報告する。そして、iNPH に対する DaTScan を用いた新たなシャント手術適応基準を提案し、検証を試みる。